

トビウオ通信 (12月号)

(TEL 0855-22-1720)

《イカ釣漁業の動向》

今月は浜田港に水揚げされたスルメイカ、ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲状況と、平成 11 年 10 月に日本海区水産研究所の行ったスルメイカの稚仔調査について報告します。

浜田沿岸一本釣り

浜田市漁協へ地元小型船によって水揚げされた、スルメイカとケンサキイカの漁獲箱数および CPUE (1 隻 1 航海あたり漁獲箱数)の変動を図 1~4 に示します。

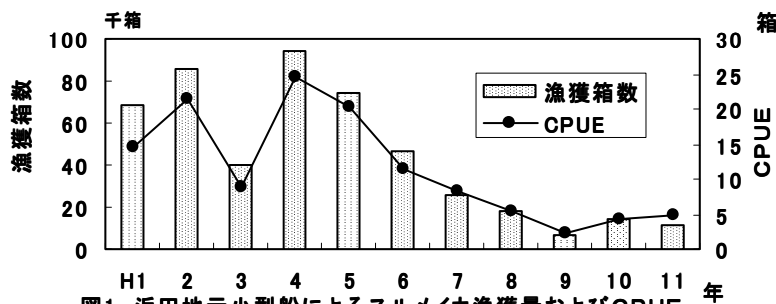


図1 浜田地元小型船によるスルメイカ漁獲量およびCPUE

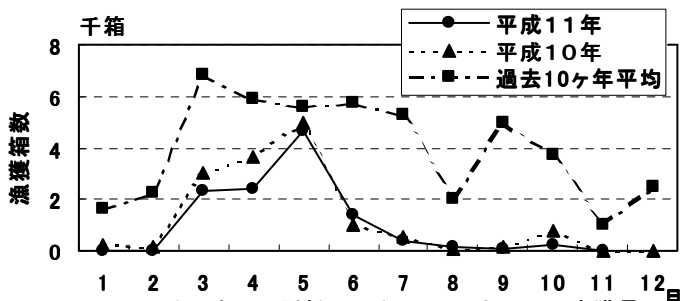


図2 浜田地元小型船によるスルメイカの月別漁獲量

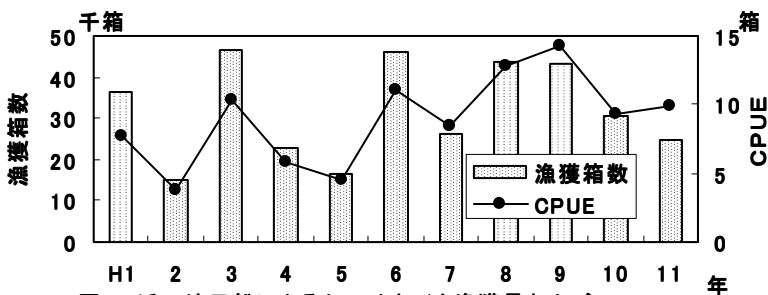


図3 浜田地元船によるケンサキイカ漁獲量およびCPUE

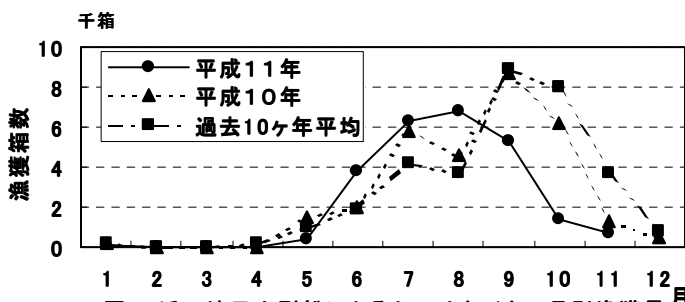


図4 浜田地元小型船によるケンサキイカの月別漁獲量

スルメイカは依然として低調

平成 11 年のスルメイカの漁獲箱数(11 月までの集計)は 11,717 箱で、前年(14,028 箱)の 84%、平年(過去 10 ヶ年の平均値、47,457 箱)の 25%と、依然として低い水準で推移しました(図 1)。CPUE は 4.7 で、前年(4.3)の 110%、平年(12.6)の 37%と、こちらも低い水準で推移していました。

月別の漁獲状況(図 2)を見ると、平成 11 年は 3~5 月は平年に及ばないものの、ほぼ前年並の漁獲が見られましたが、6 月以降はほとんど漁獲がない状況が続いています。平年と比較すると、3~5 月以外にまとまった漁獲がないことが、近年の不漁の原因の一つとなっています。

ケンサキイカは昨年をやや下回る

平成 11 年のケンサキイカの漁獲箱数(11 月までの集計)は 24,674 箱で、前年(30,694 箱)の 80%、平年(32,658 箱)の 76%とやや低調に推移しました(図 3)。CPUE は 9.9 で、前年(9.4)の 106%、平年(8.7)の 114%と、前年および平年をやや上回っています。近年の浜田のケンサキイカ漁は多少のばらつきはあるものの高い水準で推移していましたが、平成 9 年以降やや減少傾向が見られます。

月別の漁獲箱数を見ると(図 4)、平成 11 年は 6~8 月にかけて前年および平年を大きく上回る漁獲が見られましたが、9 月以降漁獲箱数は急激に減少しており、漁期

の開始時期および終了時期が平年に比べ一ヶ月程度早まっています。

スルメイカ稚仔調査結果

平成 11 年 10 月に、日本海区水産研究所が山陰沿岸から九州西岸にかけての海域でプランクトンネットによるスルメイカ稚仔の分布調査を行いました。

スルメイカ稚仔の分布海域縮小か？

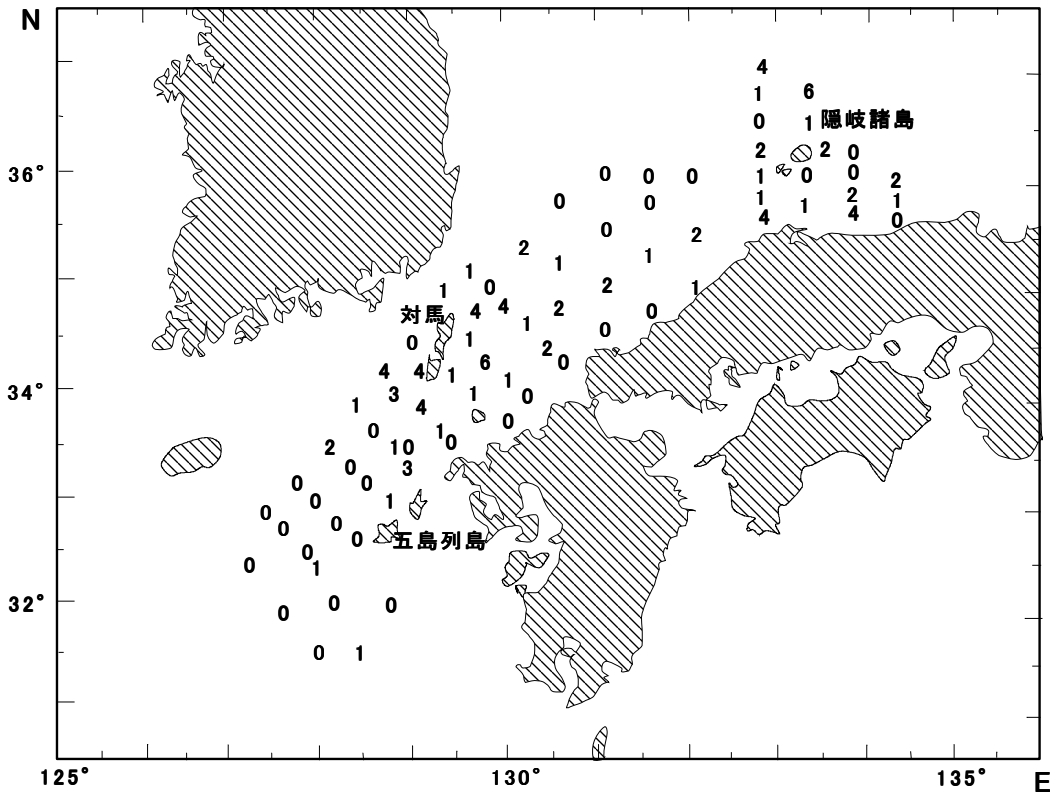


図5 スルメイカ稚仔の分布状況

図5にプランクトンネット1曳網あたりのスルメイカ稚仔の採集個体数を示します。

スルメイカ稚仔は昨年同様、隠岐諸島周辺および対馬周辺海域で多く採集されています。しかしながら、近年継続して稚仔の分布が観察されていた五島列島西側の海域ではほとんど採集されず、スルメイカ稚仔の分布範囲が縮小している可能性があるため今後の動向に注目したいと思います。

スルメイカ稚仔数は依然として高水準！

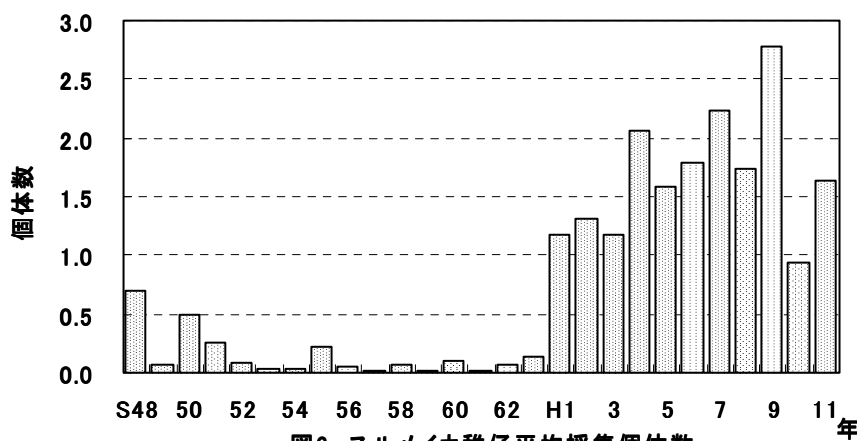
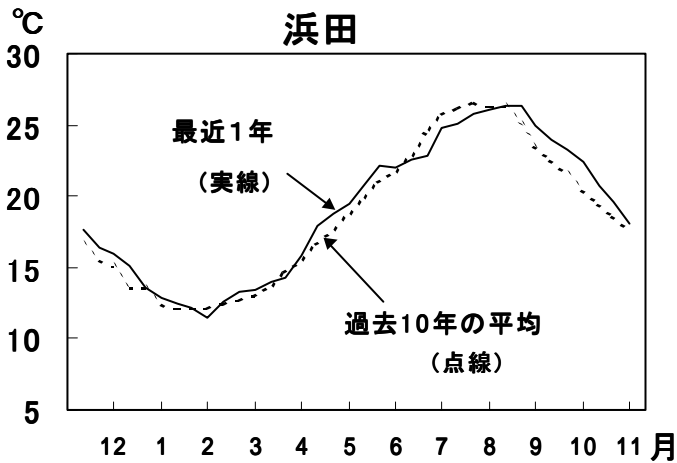


図6 スルメイカ稚仔平均採集個体数

図6にスルメイカ稚仔平均採集個体数の経年変動を示します。平成11年の採集個体数は1.6で、やや低調だった平成10年(0.9)を大幅に上回る結果となりました。スルメイカ稚仔採集個体数は平成元年以降急激に増加し、近年は高い資源水準が続いています。スルメイカ稚仔量が豊富であっても、その後のスルメイカが必ずしも好漁となるわけではありませんが、環境条件等

がスルメイカの生育・来遊に適した条件に整えば、来年の漁獲が増加する可能性は大きいと思われます。

《 11月の海況 》



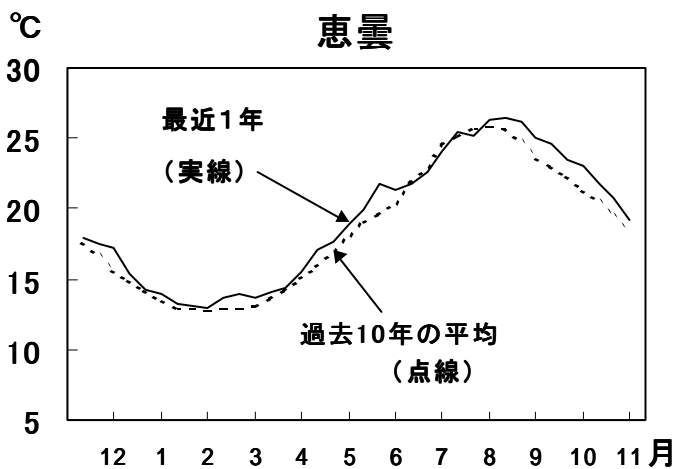
定地水温

11月	月平均	平年差	評価
濱田	19.5	0.9	やや高め
恵曇	20.6	1.1	かなり高め

11月の月平均水温は10月に比べ濱田で3.7、恵曇で3.1 下がり、濱田では平年に比べ「やや高め」、恵曇では平年に比べ「かなり高め」の水温経過となりました。9月以降見られていた高水温現象は依然として続いていました。

島根・山口・鳥取の各水産試験場が行った海洋観測結果(12月上旬)によると、山陰海域の水温はほぼ全域で上・中・下層の各層で平年比べて「かなり高め」～「はなはだ高め」となっていました。

また冷水域は隠岐諸島北西 50 マイル、隠岐諸島北東 25 マイルおよび隠岐諸島北北西 120 マイルに張り出していました。



《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は1,128 トンで、前年の 123%、平年の 18%と、前年を上回りましたが平年を下回りました。水揚金額は前年の 99%とこちらは前年並みに推移しました。漁獲の主体はマアジとマサバでした。また、恵曇ではマアジ主体に 270 トンの漁獲がありましたが、前年の 89%にとどまりました。浦郷でもマアジ、マサバ主体に 1,714 トンの漁獲があり、前年の 56%の漁獲となりました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ(2.5~3.0 段主体)を中心に 656 箱で、前年の 50%、平年の 14%と非常に低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、ケンサキイカ(2.5~3.0 段主体)を中心に 1,501 箱の漁獲があり、前年の 84%、平年の 10%と非常に低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に 44.3 トンで、前年の 57%と低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は 328 トン、水揚金額は 1 億 9,374 万円でした。また 1 統当たり漁獲量は 55 トン(平年比: 7%増)、水揚金額は 3,229 万円(平年比: 48%増)で量・金額とも平年を上回り、好調に推移しました。魚種別では、ヤナギムシガレイ、アナゴ、アンコウが平年と比べ 5.3~2.6 倍の水揚がありました。

恵曇港の総漁獲量は 186 トン、水揚金額は 1 億 1,298 万円で、量は平年を約 10%上回りましたが、金額は

平年並でした。全体的に平年を下回る魚種が多いなか、先月に引き続きヤナギムシガレイは好調であり、平年の4.1倍の水揚がありました。このほか、ムシガレイ、アナゴ、アンコウもまとまった漁が見られました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における総漁獲量は261トン、水揚金額は1億2,369万円でした。出漁日数が前年に比べ増加しましたが、量・金額とも前年を下回りました。魚種別では、ヤナギムシガレイ・アカムツ・アナゴ類・アンコウが前年に比べ2.5～3倍の水揚がありました。またソウハチが下旬よりまとまって漁獲されるようになり、今後の動向が注目されます。

大田市漁協における総漁獲量は161トン、水揚金額は7,297万円で、量・金額とも前年を下回っています。漁獲の主体はソウハチであり、前月と比べて大きく増加しています。

【定置網漁業】

出漁日数が減少したこともあり、県下全域で前月に比べて、漁獲量・生産金額とも減少しています。浜田では、ブリは相変わらず好調ですが、マアジ、サワラは前月からやや減少しました。前年同月と比較するとマアジの漁獲量はわずか3%と極めて低調です。恵曇では、マアジは前月並ですが前月目立っていたカタクチイワシの水揚げは皆無の状態です。浦郷では、ブリ、カタクチイワシ、マアジは前月並でしたがサバは3分の1まで減少しました。

【釣・縄】

イカ釣が不調ながらもブリ類などの好調に支えられ、沿岸の釣は前年をやや上回り、全体的にはほぼ平年並みの漁模様でした。浜田はブリ類・アマダイ・ケンサキイカ主体で、漁獲量13.2ト、水揚げ金額1,265万円と量は3%、金額は12%前年を上回りました。五十猛はブリ類・クロマグロ(ヨコワ)主体で、漁獲量20.8ト、水揚げ金額1,026万円と漁獲量は前年を9%下回りましたが、水揚金額は前年を10%上回っています。

漁獲統計

平成11年11月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	53	マアジ・マサバ	21ト	1,128ト
	恵曇	72	マアジ	3.8ト	270ト
	浦郷	84	マアジ・マサバ	20.4ト	1,714ト
イカ釣り	浜田(沖合)	282	ケンサキイカ	13.3箱	1,501箱
	浜田(沿岸)	121	ケンサキイカ	5.4箱	656箱
	西郷	185	スルメイカ	239.4kg	44.3ト
沖合底びき網	浜田	26	アナゴ・ムシガレイ	12.6ト	328ト
	恵曇	34	ヤナギムシガレイ・アナゴ	5.5ト	186ト
小型底びき網	和江	412	キダイ・アンコウ	633kg	261ト
	大田市	243	ソウハチ・ニギス	663kg	161ト
定置網	浜田	62	ブリ・マアジ・サワラ	609kg	37.8ト
	恵曇	36	マアジ・ブリ・カツオ類・アオリイカ	447kg	16.1ト
	浦郷	23	ブリ・カタクチイワシ・マアジ・マサバ	1,393kg	32.0ト
釣・縄	浜田	976	ブリ類・アマダイ・ケンサキイカ	13.5kg	13.2ト
	五十猛	643	ブリ類・クロマグロ	32.3kg	20.8ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。